

A

5

ものづくり補助金を活用した生産性向上に向けた取り組み

## 波崎町自動車整備協業組合

住 所	〒314-0341 茨城県神栖市矢田部大沼8866		
ホームページ	—	SNS	—
設 立	昭和47年1月	主 な 業 種	自動車整備業
組 合 員 数	9人	出 資 金	19,800千円

### ■背景・目的

当組合は、車検整備台数の減少や整備士不足、経費高騰、設備の老朽化に加え車検のデジタル化への対応といった課題に直面しており、持続的な事業運営には、新たな施策と生産性向上への設備投資が不可欠だが、そのための原資確保が困難な状況にあった。こうした中で、自動車整備事業者が「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」（以下「ものづくり補助金」という）を活用して成果を上げている事例に鎌田弘文理事長が着目し、同補助金を活用し、生産性向上に向けた新たな取り組みを行うこととなった。

### ■取組みの手法と内容

令和5年7月に令和5年度補正ものづくり補助金（第15次締切分）に応募し、令和5年9月下旬に採択。補助事業実施期間である令和5年12月から令和6年2月にかけて設備を導入し、整備士が設備の使用方法や操作などの研修受講後、令和6年4月より導入設備の本格的な運用を開始した。

導入設備は、令和3年10月1日（輸入車は令和4年）以降の新型車より義務化されたOBD車検対応の最新デジタル機器「スキャンツール」をはじめ、車体下部の整備・検査時に従来よりも高重量の車両を短時間でリフトアップ可能とする「門型リフト」およびスキャンツールとの併用で重量車のブレーキ性能をデジタル点検できる「フラットフリーローラー」の3設備である。

### ■成果とその要因

従来の検査時間は1台あたり5時間10分を要していたが、設備導入後は約3時間半となり、作業時間が大幅に短縮された。令和6年度の検査台数は、取扱車種の拡大はあったものの前年度比で減少となり、台数と売上高の増加には至っていないが、OBD車検の対象車や大型重量車への対応が可能となったことで、今後の検査台数増加に向けた基盤を構築することができた。

設備導入により1台あたりの作業時間が短縮され、1日あたりの検査可能台数が増加したが、組合からの検査受注台数が増加しないとその効果を楽しむことができないため、受注台数増加に向けた取組みが急務となっている。



最新デジタル機器（スキャンツール）



導入設備（門型リフト）



1台あたりの検査時間の短縮、賃上げ、売上等の数値目標が明確化されたことで、組織の方向性が定まり、効果的な取組みを推進することができた。